

はなわ 議会だより

2012
No.120

発行/福島県 塙町議会
平成24年11月15日

平成24年

9月定例会ほか

高城小学校の統合を議決	2ページ
平成23年度決算の認定	3～5ページ
町の考えを問う(一般質問)	6～13ページ
委員会所管事務調査	14ページ
追跡レポート	15ページ

平成 24 年 9 月定例会は 9 月 13 日から 20 日までの会期で開催しました。今定例会では、町提出議案 17 件を全会一致で原案のとおり可決（同意）し、平成 23 年度決算 10 件を認定しました。また、議員発議 1 件を可決しました。

一般質問では 8 名の議員が、町長の政治姿勢、親水公園の整備、再生可能エネルギーへの取り組み、獣害対策、行政区の見直し、放射線被害対策、人づくりなどについてたどしました。

平成 25 年 4 月

高城小学校の塙小学校への統合を議決



高城小学校の子どもたち



10 月 19 日、秋晴れの中、高城小学校マラソン大会が行われました。子どもたちの力強い走りと地域の方々の温かい声援がとても印象的でした。

9 月定例会において、塙町立小中学校条例の改正が議決され、平成 25 年 4 月に高城小学校を塙小学校に統合することが決まりました。

高城小学校は、明治 6 年、現在の熊野神社境内に植田小学校として開校したのが始まりです。その後、明治 20 年に植田尋常小学校、昭和 16 年に高城国民学校、昭和 22 年に高城村立高城小学校と改称し、昭和 30 年に塙町立高城小学校となりました。

現在の場所に開校した

のは昭和 47 年で、このときに伊香分校が統合され、49 年には真名畑小学校が統合しています。

高城小学校は、「みどりの少年団活動」が活発に行われていて、平成 18 年から 22 年にかけて様々な賞を受賞し、全国大会に参加しています。

地元の方々に支えられ、重ねてきた歴史に幕を下ろすことになりましたが、子どもたちは、高城小学校で最後となる学習や行事などに精一杯頑張っています。

平成23年度決算総額117億円を認定

会計別決算の状況

(単位:万円)

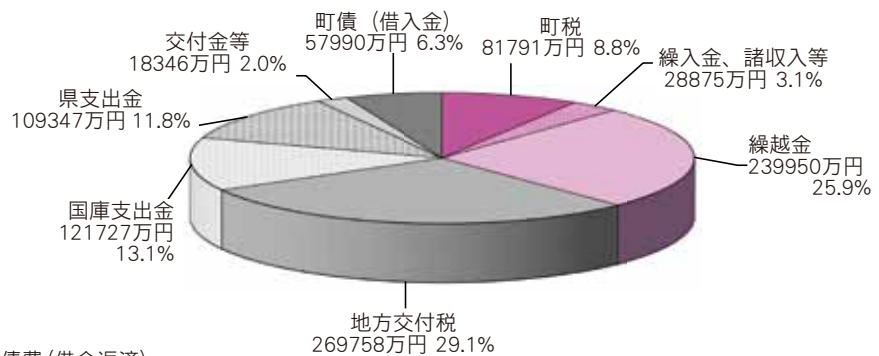
会計	歳入		歳出		
	23年度	22年度	23年度	22年度	
一般会計	927,785	830,976	871,938	591,026	
特別会計	老人保健	0	2	0	
	国民健康保険	115,954	118,931	112,193	110,298
	簡易水道	0	20,189	0	19,583
	笹原財産区	110	135	25	24
	農業集落排水	13,064	12,172	13,058	12,170
	埴林間工業団地	2,485	1,389	1,615	68
	公共下水道	16,287	17,603	16,259	17,593
	介護保険	77,499	75,614	77,495	75,566
	老人ホーム米山荘	15,178	15,570	14,090	14,743
後期高齢者医療	8,895	8,967	8,855	8,950	
合計	1,177,258	1,101,548	1,115,528	850,023	

平成23年度の決算総額(一般会計、特別会計)は歳入が、117億7258万円、歳出が111億5528万円、差引額は6億1729万円となりました。

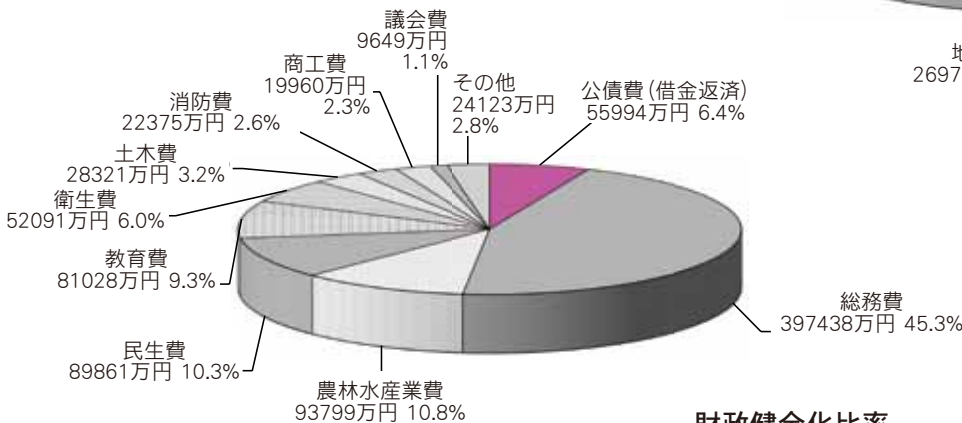
一般会計の歳入は、92億7785万円、歳出は87億1938万円、差引額は5億5847万円、このうち繰越明許費として1億6210万円を翌年度に繰越します。

決算額が例年に無く増加しているのは、地域情報通信基盤整備事業が前年度より繰り越されたことや震災復興・復旧事業が行われたことによるものです。

一般会計歳入の内訳



一般会計歳出の内訳



平成23年度上水道事業損益計算書から (単位:%)

科目	金額(円)	備考
1. 営業収益	92,425,288	水道料など
2. 営業費用	181,912,963	運営経費・減価償却など
3. 営業外収益	131,079,864	町補助金など
4. 営業外費用	31,117,156	償還利息など
経常利益	10,475,033	
5. 特別利益	0	
6. 特別損失	240,744	過年度損益修正
当年度純利益	10,234,289	

財政健全化比率

(単位:%)

健全化判断比率	平成23年度	平成22年度	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	—	—	15	20
②連結実質赤字比率	—	—	20	35
③実質公債費比率	9.9	11.3	25	35
④将来負担比率	48.0	62.0	350	—

経営健全化比率

(単位:%)

特別会計名	比率	平成23年度	平成22年度	経営健全化比率
簡易水道	①資金不足比率	—	—	20.0
農業集落排水処理事業	①資金不足比率	—	—	20.0
公共下水道事業	①資金不足比率	—	—	20.0
埴林間工業団地用地取得造成事業	①資金不足比率	—	—	20.0
埴町上水道事業会計	①資金不足比率	—	—	20.0

※比率欄の「—」は各会計に不足額がないことを表す。

決算審議

一般会計

町税の収納対策は

小林 町税の不納欠損額・収入未済額が増加しているが、対策は。

答弁 督促状、催告書、戸別訪問など実施。給与、銀行口座、土地建物を調査し差押えも行っている。課員の外各課長も戸別訪問に当たっている。

小林 不納欠損は不公平である。徴収するという決意を聞きたい。

答弁 全庁体制がとれていないと監査の指摘も受けている。全職員での取り組みを検討したい。税以外の未収入の状況は

鈴木(幸) 分担金負担金、使用料の未収状況は。

答弁 分担金の未収はIP告知システム加入申込金、使用料はIP告知システム使用料・地デジ再送信システム使用料、温泉使用料、住宅使用料である。

鈴木(幸) 国・県支出金と町債が未収の理由は。
答弁 繰越事業分であ

る。不用額多い理由は

鈴木(幸) 不用額が多額に生じた理由は。

答弁 繰越明許費・事故繰越事業での不用残や湯遊ランドの補助金3千万円が返納されたことなどである。

給食費収納対策は

鈴木(幸) 給食費未納の理由と今後の対応は。

答弁 給食費以外にも滞納がある状況。学校だけでなく今後教育委員会でも徴収していく。

事業の詳細は

藤田(一) 民生費と衛生費でこんにちは赤ちゃん訪問事業を実施しているのはなぜか。

答弁 民生費は少子化対策事業、衛生費は出生後未熟児等対象に実施した。

避難者の状況は

藤田(一) 現在も町内に避難者はいるのか。

答弁 厚生病院関係者でかなりの人数が埤町で生活しているが具体的には把握していない。

湯遊ランド補助金返還は

藤田(一) 湯遊ランドへの補助金のうち東電からの賠償金分は返還されたのか。

答弁 6千万円交付し3千万円返還された。

ダリア栽培技術指導員養成事業等の成果は

鈴木(安) ダリア栽培技術指導員養成事業、ダリア拡大振興事業の成果は。

答弁 県の緊急雇用事業と、ふるさと雇用事業で、ダリア園整備、ダリアのPR、周辺整備を実施。

側に山積みになっている碎石の使い道は。旧校舎前にあった考える人の像が放置されているが。

答弁 今年度整備する予定、確認して対応したい。

国有林利用計画は

鈴木(茂) 那倉字炉沢の国有林を購入した経緯と利用計画は。

答弁 森林管理署との話し合いの中で購入、森林ふれあい公園を計画。

自殺対策緊急強化事業は

鈴木(幸) 自殺対策緊急強化基金事業の成果は。

答弁 相談会を13回実施、継続して実施予定。婦人会への補助金増額を

小林 婦人会へ補助金は増額できないか。

答弁 来年度検討する。

国民健康保険

不納欠損・収入未済は

鈴木(幸) 保険税の課税方法は。

答弁 所得割、均等割が課税される。

小林 町長は職員にどのような指導をするのか。

答弁 資質向上と粘り強い交渉を求めている。

小貫 不足分

は一般会計から繰入を考えているか。

答弁 公平性の観点から難しい。

藤田(一) 滞納者への資格証明書発行件数は。

答弁 23年度は27世帯に交付している。

藤田(一) 収納率改善

にどう取り組むのか。

答弁 全庁的な体制と徴収専門の嘱託員の雇用等を検討したい。

農業集落排水処理事業

川上集排接続率は

鈴木(安) 川上の接続率が低いのはなぜか。

答弁 合併処理浄化槽設置の世帯が多い。



川上集落排水処理施設

公共下水道事業

加入促進を図りたい。

藤田(一) 不納欠損を防ぐ方策は

防ぐための方策は。

答弁 徴収猶予や分納で時効中断に努めている。

藤田(一) 公平性確保

のためにも未収金の確保は重要、その対策は。

答弁 上水道と連携し徴収を。未収の場合は給水停止措置をとっている。

藤田(一) 監査意見書で収納率の改善が求められているが。

答弁 担当課だけでなく役場全体の連携も必要。



ダリア栽培の指導を

中学校周辺の整備は

鈴木(安) 中学校の東

介護保険

介護予防事業の推進を

鈴木(幸) 介護予防事業の特定と一般の違いは。

答弁 特定は、医学療法士などの専門スタッフが行う介護予防教室を、一般は、地区集会所などで健康体操などを実施している。

鈴木(幸) 介護予防事業の目的は健康増進であり、医療費の節減につなげなければならぬと考えるが。

答弁 反省すべきところは反省し、効果的事業とするため検討したい。

上水道会計

不納欠損を防ぐ方策は

藤田(一) 上水道と下水道の納付書を一緒にできないか。

答弁 現在検討中。

藤田(一) 監査意見書が「概ね適正」の理由は。

答弁 未収金全体を資産に計上していることに對し問題提起として「概ね」と表現した。

決算審査意見書から



歳入総額は117億73百万円、歳出総額は111億55百万円となり、当町としてはかつて無い財政規模となった。この結果、収支残額総計は6億17百万円、実質収支額5億19百万円と、厳しい財政環境下にあっては比較的余裕が感じられる収支状況であった。

平成23年度は大型事業である地域情報通信施設整備事業が完了するなど、震災による事故線越し分を含め事業が順調に消化遂行され、財政運営においても一応の健全性が維持されつつ決算が終了したところである。

決算実績を分析すると、歳入において震災の影響による入湯税の大幅減少にもかかわらず町税合計で僅かながら増加に転じたことは健闘の証と見たい。

当町の歳入構造は依然として地方交付税、国県支出金、借入金等への財源依存が目立っており、行政環境や諸条件により、やむを得ないところではあるが町税をはじめとした自主財源不足の体質が恒常化しつつある。国の深刻な財政事情と併せ、各自治体における医療、介護等の扶助費の負担増等、益々厳しい行財政環境を中長期的に見通したとき、本町の将来にわたる健全かつ自主的行財政運営を目指して、固定観念や旧弊に囚われない改革意識を以って、また全員の叡智を結集し安定した自主財源の確保と経常経費の効率化・合理化に取り組まれるよう期待する。次の事項について実行・実施を要望する。

- ・町税等の収納率向上と収入未済額の縮減
- ・不納欠損処理の厳格化
- ・課税の公平化・厳格化
- ・重要財政指標への認識強化と数値目標の設定

埴町監査委員 石川 昭彦
同 大縄 武夫

人事案件

監査委員の選任同意

石川昭彦氏(上石井)

人権擁護委員候補者推薦

生方 and 廣氏(常世北野)

鈴木俊二氏(川上)

条例の制定

埴町復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例

復興産業集積区域における固定資産税の課税免除について定める。

埴町介護保険財政安定化基金条例

介護保険料率の増加抑制のため基金を設置する。

条例の改正

埴町防災会議条例

災害対策基本法の一部改正に伴い防災会議の充実を図る。

埴町災害対策本部条例

災害対策基本法の一部改正に伴う条例の改正をする。

埴町国民健康保険条例

医療費無料化を15歳までから18歳までに拡大。

埴町立小学校及び中学校

詳細は2ページに掲載。

鈴木(安) 高城小学校の体育館と校庭はどう利用するか。

答弁 地域のための利用を検討していく。

藤田(一) 25年4月統合の計画があったのに、



緊急情報を確認する職員

埴町奨学資金貸付基金の設置管理及び処分に関する条例

貸付対象者を専門学校生等にも拡大する。

なぜ体育館の耐震補強工事の契約をしたのか。
答弁 地域の理解を得られるまで時間がかかることも想定していた。

町長の政治姿勢を問う 鈴木 茂議員



町民と一体になった町政を 町長

質問 風評被害はまだまだ厳しいものがある。道の駅はなわの観光案内

道の駅はなわの観光案内所復活を別の形で道の駅PRを

質問 三期目の重点施策は何か。
答弁 第一に「風評被害」の一掃、第二に「脱原発」に向けた取組み、第三に「若者定住化」に向けた取組み、第四に「健康センターの建設」、第五に「ひとり暮らし高齢者のための施策」、第六に「教育施設の充実」である。

質問 町民目線の政治とよく言われるが、町長が考える町民目線の政治とは何か。
答弁 町民の方の訴える力と私の行う町政が一体となったとき、町民目線の立場で、町政ができるものと思う。
質問 三期目の重点施策は何か。
答弁 第一に「風評被害」の一掃、第二に「脱原発」に向けた取組み、第三に「若者定住化」に向けた取組み、第四に「健康センターの建設」、第五に「ひとり暮らし高齢者のための施策」、第六に「教育施設の充実」である。

質問 風評被害はまだまだ厳しいものがある。道の駅はなわの観光案内所は、なくてはならないと思うが復活できないか。
答弁 財源の問題により止めざるを得なかった。復活というより、別な形で道の駅はなわのPRをしたい。

郷土愛の把握と教育は各学校で取り組みを
質問 町の将来を考えたとき、これから町を支えてくれる小中学生の郷土愛が、気にかかるが、どのように把握しているか。
答弁 子供たちの地域行事の参加や青少年主催大会の発表内容から判断すると子供たちの町を思う気持ちは充分であり心配ないと思う。郷土愛を

所は、なくてはならないと思うが復活できないか。
答弁 財源の問題により止めざるを得なかった。復活というより、別な形で道の駅はなわのPRをしたい。

技術伝承等の施設整備を既存の施設で実施を

質問 多くの熟年の方の工芸品は町の宝であり、匠の技である。この方々の技を伝承する場所を設けて欲しい。
答弁 既存の公民館など、今ある施設を使ってぜひ伝承や作品作りに励んでほしい。

質問 町の加工特産品（保存期間の長いもの）がなかなか開発できない状況にある。補助金のパンフレットだけでなく、もっと町でサポートが必要と思われるが、どのように考えるか。
答弁 加工品の特産品づくりはなかなか大変であるが、県の補助金等を

育む教育は各学校で取り組んでいる。
質問 多くの熟年の方の工芸品は町の宝であり、匠の技である。この方々の技を伝承する場所を設けて欲しい。
答弁 既存の公民館など、今ある施設を使ってぜひ伝承や作品作りに励んでほしい。



手作りの籠

あぶくま高原美術館入館者増の対策は展示品の工夫とPRをしていく



あぶくま高原美術館

使い、町の方の意識の向上に努め、前向きに取り組みたい。
質問 あぶくま高原美術館の入館者が少ない状況で、地域の方も心配している。増やす対策はないか。
答弁 当初より入館者が減っていたところに、震災が追い討ちをかけた。当町に避難している方の絵や40年前の町の写真を展示したり、かなり好転している。広報やIP告知、町のホームページなどでPRする。

町長三期目の具体的取り組みは

吉田克則議員

山水花のまちづくりを進める 町 長



羽黒山と久慈川

質問 山水花の町づくり「みんなが主役しあわせ実感のまちはなわ」の実現が3期目の公約、町づくりの基本的考え方は。

答弁 埴町は自然に大変恵まれた町である。山のようにどっしりとした考え、

清らかな水、花は人の気持ちを支え安らげる。埴町という郷土を愛するために山水花の町づくりをすすめていく。

原発事故対策の取り組み 粘り強く交渉していく

質問 原発事故による精神的賠償金県内一律賠償

償の実現と東電及び国に対する今後の取り組みは。
答弁 一度線引きされたと国や東電は「てこ」でも動かないのが現状。東電と国へ陳情。東電・福島県も補償に至ったが、福島県人1人100万円

の補償はしてほしいという持論を曲げるつもりはない。町民課に原発事故補償問題窓口を配置。議会から原発事故産業実態調査に基づく提案書も出され今後も粘り強く東電に交渉していく。

町若者定住化への取り組みは若者向け住宅の建設を

質問 若者が安心して埴町に定住できる若者向け住宅とは具体的にどのような住宅なのか。また、建設場所スケジュール等の考えは。

答弁 プライベート、プライバシーを守る観点から一戸建て庭付きの住宅にしたい。町大工さんに若者の希望する住宅を考えてほしい。20年、30年住めば土地つき家付きで無償譲渡ということも考えた

い。働く場所の創出とともに、若者には非住んでみたいと思えるような住宅をつくりたい考えである。



磐梯町の若者向け住宅

健康センターの建設は複合施設を考えている

質問 子どもからお年寄りまで利用できる健康センターとはどのような施設なのか。また、建設の時期、建設の場所はどこを想定しているのか。

答弁 リハビリ、デイサービスをミックスし、包括支援センター的機能とケア、病気の予防や指導、運動機能も備えた複合施設を考えている。

ひとり暮らし高齢者への取り組み

共同生活施設の整備を
質問 ひとり暮らし高齢者が共同生活ができるような施設とはどのような施設か。また、今後の整備予定は。
答弁 200人以上がひとり暮らしをしている。冬期間とか一時的でもよいので、同じ境遇の人と共同生活できるような施設ができればと考える。一日でも早く実現できるように努力していきたい。

町の考えを問う



川上川親水公園改修の予定は 藤田一男議員 現段階での予定はない

町長



川上川親水公園

質問 川上親水公園は、昨年の大雨で状況が変わってしまった。これを元に戻す考えはあるか、また、入口の階段も傷んでおり危険である。改修の予定はあるのか？

答弁 緊急性がないということなので今の段階では改修の予定はない。

川上道場地区への水道の整備予定は
現段階で計画はない

質問 十数年前に川上字道場地区の方々から水道を引いて欲しいとの要望があった。当時は簡易水道の縛りがありできないとの説明であった。今は上水道となったので、水道整備の制約がなくな

スクールバス運行委託の管理監督は 契約に基づいて運行している 教育長

り問題はないと思われるが整備予定はあるのか？

答弁 現段階で計画はない。

質問 住民から要望がある。その声を無視できないのでは。

答弁 条件にあった補助事業が見つからないので計画していない。検討はしていきたい。

質問 スクールバス運行をダリア観光に委託して5ヶ月以上たつたが発注者として管理監督はどのようにしているのか？

答弁 業務委託契約に基づき業務日誌や業者との連絡調整会議及び学校からの報告によって管理している。このほど、県教育委員会の通知に基づき調査も行ったが関係法令に基づき運行されている。

質問 委託契約書中第7条で労働基準法、労働安全法、道路交通法その他関係法令を遵守しな



委託しているスクールバス

ればならないとなっているが、法令は遵守されていると認識しているのか？

答弁 法令を守るのが原則である。

質問 パート雇用やアルバイトの運転手では法令違反になり契約違反ということになる。そのようないことがあったように見受けられるが、行政としてどう対処するのか。

答弁 調査をして、もし違反があった場合には今後違反のないように改善指導していく。

町の考えを問う

再生可能エネルギーへの取り組みを

鈴木安次議員

ビジョン策定委員会で検討している 町長

質問 本町の再生可能エネルギーの取り組みはどのようなものになっているか。

答弁 木質バイオマスが有効であるのではないかとこのビジョンの中で示されている。また、太陽光発電、水力発電もふさわしいのではないかとこのおおよそのビジョンが示された。

質問 9月3日に開催された埴町再生可能エネルギー実用化ビジョンの

策定委員会の構成メンバー等はどのようなものになっているか。

答弁 構成メンバーは、副町長が委員長、町内製材業者、有識者、議会議員、計10名に委嘱状を交付している。

質問 埴町再生可能エネルギー実用化ビジョン策定委員会の中の具体的内容は。

答弁 年間的に1万1000トンの計画で現在間伐等行っているが、



再生可能エネルギー実用化ビジョン策定委員会の視察

そういった資源を利用して、木質バイオマスがよいのではないかとこの意見まで出ている。
質問 農産物、稲わらの処理、牧草、あるいはふん尿の始末にもかなり困っている。そのようなものをバイオマスの中で組み入れていく考えはないか。

答弁 未利用材とかバーク、ふん尿処理とか、これから検討の余地があるのではないかと思っている。
質問 埴町の基幹産業は農業であるので、稲わら・牧草・ふん尿なども、埴町の復興のため、ぜひとも検討してほしい。
答弁 国や東京電力と折衝を重ねて、埴町にできるもの、再生エネルギーというのを検討しながら、両面から攻めていく必要があると考える。
質問 国の実証プランに埴町が手を挙げる考えはなかったのか。
答弁 考えは持っていない。
質問 木質バイオマスの事業化は考えていないか。
答弁 再生可能エネルギー実用化ビジョン策定委員会の中で検討している。

ダリア園管理の状況はこれから方策を考えたい

地とか太陽光関連に利用する考えはないか。本町でもいち早く太陽光発電、バイオマス発電に取り組んでいくべきではないか。
答弁 これから進めるものは進めていくという考えである。



湯遊ランドのダリア園

質問 湯遊ランドのダリアは、埴町の顔であると考えられている。湯遊ランドのダリア園のこれからの取り組みについて考え

を聞きたい。
答弁 湯遊ランドを利用する人たちに楽しんでいただけるような方策をこれからとらなければならないと思っている。

町の考えを問う

行政区の見直しを

小峰由久議員

行政区の意見を尊重したい

町長



行政区長会

民の負担軽減の面から見直す考えはないか。
答弁 行政区から相談があれば真摯に受けとめ検討したい。

質問 町内行政区は43区、世帯数は最大227戸、最小8戸、世帯数20戸以下の区が6戸となっている。行政の効率化、住民の負担軽減の面から見直す考えはないか。

障害者福祉の拡充を 相談事業などで対応

質問 国・県・町の障害者対策と制度の周知方法は。

答弁 国は各障害者法及び障害者自立支援法に基づき対策をそれぞれ規定し、県や町が事業主体となり支援給付を行っている。周知方法は、障害者手帳と冊子の配布、相談事業で対応している。

質問 身体障害者福祉会は、それらの周知・互助を目的に組織しているが、現在会員加入率11%と郡内最低の組織率となっている。町として会員増強に協力する考えはあるか。

巡回福祉バス試験運行の進捗状況は

公共交通活性化協議会で検討中

答弁 広報はなわにより周知を図っているが今後も続ける。

質問 巡回福祉バス試験運行の進行状況について聞きたい。
答弁 公共交通活性化協議会の中で実証実験等話し合われる予定。
質問 公共交通活性化協議会は具体的に何をやるのか。その目標は何か？

答弁 多くの関係者の合意のもと、公共交通を確保するために何をすべきか検討し、町の施策に反映させていく。
質問 意見の集約をして成案を得るという決意は。
答弁 意見を取りまとめる前であっても実験はできる。早めに実証実験をしたい。



路線バスが運行していない田代地区

一般質問

町の考えを問う

獣害対策への取り組みは

鈴木幸江議員

補助制度等の活用周知 していく 町長

質問 被害が町内全域に拡大している。対策はどのような状況か。

答弁 要請を受け駆除隊に駆除依頼しているほか、駆除機器の貸出しや電気牧柵設置補助金及び捕獲への補助金を出している。

質問 今後の対応として駆除期間（狩猟期）の通年制、広域的一斉駆除、区長経由の駆除申請の検討や防護ネット補助など



設置した電気牧柵

町長

スピード感のある対応が必要なほか、荒地・耕作放棄地対策も急務であると考えるが。

答弁 狩猟期間は、通年必要と考えるので県に要望する。郡単位などの一斉駆除は現段階では難しいが

検討する。駆除の申請手続きに

いては、通常区長が窓口になっている。申請があれば即対応している。直接相談も受けている。防護ネットの補助金も要望があれば検討する。耕作放棄地対策については、まず中山間事業により進めたい。

質問 被害の実態や地域の要望の把握、町の対策（補助制度など）の周知等のため住民との直接対話が必要でないか。

答弁 行政懇談会等を開催し、対応すべく検討したい。

生命と生活・財産を守る危機管理は 情報提供・組織の改善に取り組む



防災訓練の様子

質問 瞬時警報システム（Jアラート）の不具合が全国の問題になっているが、本町においてはどうか。また、IP端末機との連動に問題はないか。

答弁 Jアラートは昨年の7月から稼働、IP端末機とも連動し、問題なく情報が流れている。今後、システムの検討・改善を進め、情報を提供していく。

質問 自主防災意識の向上、自主防災組織の充実を図っていく考えは。

答弁 行政区長をトップに対応できる組織を目指すしている。防災上必要な改善・改良に積極的に取り組んでいく。

質問 地域防災計画の中で土石流・急傾斜地・地すべり等の災害危険箇所が町内全域で194箇所ある。防災事業の進捗状況と今後の計画は。

答弁 ほとんどが県の管理下で、県と情報交換

しながら要望していく体制になっている。

道路等は、国・県の期成同盟会等が要望し進捗を上げている。今後も、道路及び河川のパトロールにより危険箇所の把握、対応に努めていく。

町の考えを問う



放射線被害の実態と除染状況は

小貫初枝議員

町は学校などを除染地域でも除染を実施

町長

質問 放射線被害の実態と除染の進捗状況について聞きたい。

答弁 埴町は0・23マ

イクロシーベルトを超えているところはない。除染をしなければならない

地域に指定されていないが、子どもを持つ親が心配するので、小学校の校庭、幼稚園の園庭の土の入れ替えを行った。県の指導及び補助を受けて、通学路の草刈りや一定区間の土砂の除去を行った行政区もある。

質問 地域給付金給付の進捗状況は。

答弁 県の資料によると8月31日現在97%の支払い状況である。未請求者については、広報し請求を手伝いたい。



地域で除染作業を実施

子どものいじめの実態は迅速な対応で早期解決を 教育長



いじめのない楽しい学校生活を

ではどのような状況であるか。

答弁 いじめが社会問題化した平成6年以降、未然防止や早期発見、早期解決を指導してきた。

年2回、アンケートによるいじめの実態調査を行っている。調査を行っている。校長会、生徒指導担当の先生の会議等で情報の交換を行い、早期発見・早期解決に努めてきた。今年の4月から8月の期間で、小中学校合わせて6件の報告があったが、学校の迅速な対応により深刻に至らず早期解決が図られた。

質問 兵庫県の高校2年生の男子生徒、滋賀県大津市の中学生2年生の男子生徒の自殺は、社会問題として、国会でも取り上げられ、教研集会でも緊急シンポジウムが開催されるなど注目を集めている。埴町

質問 学校や教育委員会だけでなく、地域ぐるみで少ない子どもたちを守っていくことが必要。ホームページやメール、手紙等間口の広い対応をすべきと思うがどうか。

答弁 根絶は、「いじめは絶対に許さない」という認識に立つことが重要といわれている。相手を思いやる心や自分を大

切に、よりよく生きるようとする気持ちを幼い時から醸成することが大切と考える。

米軍軍用機訓練飛行に対する町長の考えは 広域的な対応で住民の不安解消を

質問 埴の上空も米軍軍用機オスプレイの訓練飛行ルートになっているが、町長としてどのように考えるか。

答弁 福島県の町村会としても大きな問題です。地域住民の不安を取り除くためにも、大きな組織として取り組まなければならないと思っております。皆さんと協議をしながら対応したい。



「人創り」の具体的事業は 藤田高志議員

人材育成事業を進めている

町長

質問 「町創り」は「人創り」と言われるが将来に向けた人づくりについて具体的事業について聞きたい。

答弁（町長） 今町が行っている事業はすべて人づくりに通じている。第五次長期総合計画の基本目標を受け、学校教育および生涯教育のそれぞれの事業を通して人材育成に努めている。

答弁（教育長） 学校教育では、郷土を愛する理解と郷土を愛する心情を育む教育や地域社会に貢献できる人材の育成を目指す中高一貫教育などの事業を推進している。生涯教育においては、生涯にわたり各年代ごとに健康と生きがいを持てる生活を願う諸事業を進めていく。中核事業は、青少年健全育成事業、地域社会の一員として未来の埴町を担う青少年育成に努めていく。



まちづくり講座生が始めた水上依引き競争

質問 かつて、町の人材育成事業である「まちづくり講座」があった。その講座生は、現在も町づくりに取り組んでいる。町づくりに進めるボランティア団体の支援やリーダー育成等「人づくり構想」について考えはあるか。

答弁 学んだことを生かすことは大切だが、行政におんぶに抱っこではだめ。皆で知恵を出し合って町民と一緒に一つの事業に取り組めるよう

なことが大切。

「子ども・若者たちの気持ちを満たす」政策を安心・安全を伝え必要なものに投資していく

質問 子ども、若者たちの「放射能被ばく恐怖・不安・ストレス」早期解消等の政策は。

答弁（町長） 放射能による風評被害対策を講じているが、風評被害は自ら作ってしまうことのないよう皆が協力して風評被害を一掃したい。

答弁（教育長）

子どもたちに放射線に対する正しい知識、放射能から身を守ることをなどを継続して指導していく。また、町の空間線量等を定期的に測定、学校給食の食材の検査結果を子ども、保護者に伝え、埴町は安心・安全ということを伝えていくことも大事。

質問 この町を担っていく子どもたちに希望を与えられるような施策にはどのようなものがあるか。

答弁 働く場所の確保、埴厚生病院を核とした健康ゾーンの整備、若者向け住宅の確保など必要なものには投資を惜しまない。

「若者が集まれる場所・遊べるゾーン」の具体的計画は

多目的施設の設置を考えたい

町長

質問 6月議会では、答弁した若者が集まれる場所、遊べるゾーン」の具体的内容は。

答弁 ソフトボールや野球で若者が集まれるような場所を東白川郡内に何らかの方法で建設したい。

質問 大規模多目的芝グラウンドの設置は、大型スポーツ大会の誘致などによる交流人口の増大が見込め、また広域的な住民の避難場所としての利用を進めることが可能となる。地盤が強いことや首都圏からの位置など利点を生かした施策の可能性はあるがどう考えるか。

答弁 練馬区などと防災協定を結んでいる。避難者受入などにも利用可能であると思う。都市交流にも生かすことができる。

補正予算

補正予算のあらまし

会計名	補正前の額	補正額	補正後の額	
一般会計	58億7770万9千円	2億5854万4千円	61億3625万3千円	
特別会計	国民健康保険	11億5510万3千円	3359万4千円	11億8869万7千円
	農業集落排水処理事業	1億3842万6千円	6万2千円	1億3848万8千円
	埴林間工業団地	1200万9千円	870万1千円	2071万円
	介護保険	8億1103万8千円	839万1千円	8億1942万9千円
	後期高齢者医療	8917万2千円	39万7千円	8956万9千円

で50頭を予定している。

鈴木(孝) Jアラートの意味を考えて、設定変更すべきと思うが。

答弁 緊急情報であることを考慮し行いたい。

大縄 地震災害住宅補助金の申請はいつまでか。

答弁 締め切りは5月であった。

農業集落排水

藤田(一) 農業集落排水処理施設の汚泥処理はどのようにしているか。

答弁 一般廃棄物として東白衛生組合で処理している。

その他

財産の取得

答弁 米の放射性セシウム濃度全袋検査のための機器を購入。

質疑

藤田(一) 入札は1社だけだったのか。



米のセシウム濃度検査機器

一般会計
藤田(一) 広域入所負担金と広域入所委託料の金額の差は。
答弁 算定基準が違う。
藤田(一) 老人ホーム米山荘の跡地に町所有の土地はないのか。
答弁 町の土地が一部ある。
鈴木(茂) 野生イノシシ緊急対策事業予算の見込みは。
答弁 11月から3月ま

答弁 県が5社を指名しプロポーザル方式で実施。県南地方は共通の単価で随意契約する。

藤田(一) 設置場所を予定していた薩摩酒造跡地から吉成運送の倉庫に変更するのはなぜか。

答弁 薩摩酒造跡地までの道幅が狭く危険なので変更した。

藤田(一) 補助金から諸収入に2165万が財源振替されている理由は。

答弁 東京電力からの補償が入るためである。

地域医療の現状と問題点を調査

経済厚生常任委員会所管事務調査

(平成24年8月28日実施)

医療体制の現状

郡内の医療機関の減少及び医師の高齢化により、今後更なる開業医の減少が危惧される。このような状況下において、診療各科の手術数や救急車の受入等が増加し、対応に苦慮している。

地域医療の問題点

利用者から見た問題点
 ①長期入院施設が不足している。
 ②夜間・休日などの救急医療体制の整備が必要
 ③接遇への不満(待ち時間、治療費、医師の説明)

※本来の医療格差に気がつきにくい状況である。
医師側から見た問題点
 ①医療従事者不足のため人員確保が必要(医師不足)

※利用者と医師の認識の違いを是正し、両者が地域医療の問題点を共有し、地域を上げて解決に取り組むことが重要である。

在宅医療介護の問題点

家庭環境及び家族構成等により、在宅医療従事者を増やしただけでは根本的解決にならない。在宅医療への要望が増加、需要と供給のバランスが取れていない状況にある。人口推計から、今後ますます医療介護の環境悪化が懸念される。

埴厚生病院の現在と今後の取り組み

介護医療の24時間体制へ向けた基盤づくり事業を進める。また、地域医療連携室を設置し、医療福祉、介護機関の連携がスムーズに行われている。情報発信、行政との連携及び勤務医の負担軽減に取り組んでいく。



埴厚生病院で説明を受ける

今後の方向性

埴厚生病院としても行政との連携を強化し、少子高齢化に対応できる地域医療体制の構築が必要との見解である。議会としても、医療、福祉、介護の現場の声を町政に反映させるため、関係機関との連携を推進し、地域医療の更なる充実・向上を目指すべきと再認識した。

追跡レポート

～ 一般質問のその後 ～

定例会で行われた一般質問の中からピックアップし、その後の動き、現在の状況を調査しました。

農産物の実害、風評被害対策は

質問 農産物の実害、風評被害に対しての問題点、今後の取り組みについて伺いたい。

答弁 道の駅などの売上げが減少し、それぞれに東京電力に賠償請求をしている。町では、都市交流を一層充実させ、アンテナショップの設置を検討しているほか、パイプハウスでの農作物栽培の支援や加工品の開発も検討していきたい。

(平成24年3月定例会)

その後の状況

都市交流イベント参加により風評被害の払拭に努めている。アンテナショップの開設により消費者の声を直接聞くことができ、都市交流の核としての役割が期待される。またパイプハウスリース事業で通年の農産物栽培を促進するほか、東京聖栄大学(葛飾区)と共同で農産物の加工品作りにも取り組んでいる。



都市交流事業

議会議員と意見交換しませんか

議会議員と意見交換会をする団体を募集しています。町民または町内に勤務しているおおよそ10人以上のグループが対象で、ご希望の会場に伺います。お申し込みは、議会事務局(Tel 43-2150)にお願いします。



地域医療問題講演会

平成24年度第5回臨時議会

平成24年10月18日、第5回臨時議会が開催されました。町提出議案2件を全会一致で原案のとおり可決しました。

補正予算

平成24年度一般会計補正予算(第3号)
平成24年度一般会計予算に3077万2千円を

追加し、総額を61億6702万5千円に。

工事請負契約

平成23年9月16日契約の埴小学校校舎耐震補強・大規模改修工事の請負金額を2731万6800円増額し、4億348万4550円に。

議会の話題

総務文教・経済厚生常任委員会行政視察研修
10月24日から26日、岡山県西栗倉村の「百年の森構想」と真庭市の「パイオマスタウン真庭」の取り組みを研修しました。



真庭市の製材業者を視察

町村議会議員研修会
10月22日、郡山市で開催された町村議会議員研修会に参加しました。内容は「震災からの復興や今後の展望」などでした。県道高萩郷線整備促進のための高萩市・埴町議会議員の交流研修会
11月6日、24年度の研修会は、高萩市で開催されました。高萩郷線の整備状況説明、高萩市の企業「生科学工業高萩工場」を見学の後、意見交換会が行われました。

東白川郡地域医療問題講演会
9月29日、埴農村勤労福祉会館で開催された東白川郡医師会が主催する「地域医療問題シンポジウム」「認知症セミナー」の講演を聴講しました。

広報編集委員が、団体(サークルなど)を訪問して活動内容を皆さんにお知らせします。

団体の名称：はなわダリア染めの会



はなわダリア染めの会の皆さん

「はなわダリア染めの会」は平成14年1月に発足した女性グループで、現在は二代目の会長を白石好子さんが務め会員13名で活動しています。ダリアを活かした特産品の開発に取り組み、試行錯誤を繰り返して、ダリア染めの染色法を完成させました。平成15年には第3回ふくしま特産品コンクール(工芸部門)でふくしま特産品大賞(県知事賞)を受賞しました。ダリアの花びらでつくった染色液で鮮やかな色に仕上げます。花の種類や花びらの量、また水などによってもその仕上がりが変わり、絞り染めの技法などによって様々な模様も楽しめ、世界に一つだけの作品に仕上がります。

ダリア染めのハンカチ、スカーフ、ストールなどの製品は、道の駅・



公民館の講座は大好評



輪ゴムを使って様々な模様を

湯遊ランドはなわ・コミュニティプラザ、また福島空港やコラッセふくしまなどでも販売されています。

ダリア染めは、公民館の講座やイベントなどで体験ができます。会員の方が講師となり、親切に指導してくださいませので、皆さんもぜひオリジナル作品に挑戦してはいかがでしょうか。

編集後記

那倉、片貝に続いて、高城小学校の統合が決定しました。少子高齢化の急速な進行の中、学校の統廃合は、東京都内でさえ例外ではないようです。地域の方々は、一抹の寂しさを感ずることでしょうが、何よりも子どもたちの将来のことを考え、より良い手法を真摯な話し合いの中から見出すことが大切なのではないでしょうか。

今年の消防操法大会では、全国大会に出場するという快挙を成し遂げたことは、町を明るくするすばらしい出来事でした。団員や関係者のご努力に心から敬意を表します。

小貫初枝

議会傍聴においでください

次回の定例会は、12月中旬に開会されます。議場は役場庁舎の二階西側にあります。住所・氏名の記入等簡単な手続きで傍聴できますので、ぜひお出かけください。

広報編集常任委員会

委員長 鈴木 幸江
副委員長 吉田 克則
委員 小貫 初枝
委員 鈴木 安次

※議会会議録はホームページでご覧になれます。